

平成 27 年度「キャリア教育・就労支援等の充実事業」成果報告書

受託団体名

愛媛大学教育学部附属特別支援学校

I 概要

1 モデル地域の概要

①モデル地域の種類 ※Ⅰ型、Ⅱ型、Ⅲ型のいずれかに○を付してください。

	Ⅰ型（連携型：特別支援学校高等部及び高等学校の連携）
○	Ⅱ型（単独型：特別支援学校高等部のみ）
	Ⅲ型（単独型：高等学校のみ）

②モデル校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名（ふりがなを付すこと）
国立大学法人 愛媛大学	特別支援学校	知的障害	えひめだいがくきょういくがくぶふぞくとくべつしえんがっこう 愛媛大学教育学部附属特別支援学校

2 研究課題

特別支援学校小学部・中学部・高等部の系統的なキャリア教育の推進及び就労支援体制の構築と就職率の向上を目指して

3 研究の概要

- (1) モデル校を核とした就労支援体制の構築
 - ① 就職支援ネットワーク会議の実施（年 3 回）
 - ② ハローワークを含む関係機関・民間の企業・事業所とのネットワークの強化・深化
 - ③ 就職支援コーディネーターの配置等による校内の就職支援体制の充実
 - ④ モデル校における就職支援に関する事例検討の実施
 - ⑤ アフターフォローによる障害者雇用の現状及び課題の把握とキャリア教育への還元
 - ⑥ 関係機関と連携したキャリア発達を支援する授業改善及び教職員・保護者を対象とした就職支援研修等への助言
- (2) モデル校における就職支援コーディネーターを活用した就職率向上への取組
 - ① 進路指導主事と連携したデュアルシステム型実習を含めた新規の実習先等の開拓と実習の実施による巡回指導、新規雇用先の開拓及び情報の集積
 - ② 授業参観や個別懇談による高等部を中心とした児童生徒の実態把握及び就労能力の評価の実施
 - ③ 企業サイドニーズ、生徒の就労能力の評価、保護者の希望を考慮したジョブマッチングの実施
 - ④ 卒業生を対象としたアフターフォローの充実と事業所等へのヒアリングの実施
 - ⑤ ハローワークを含めた関係機関・各事業所と本校との定期的な連絡調整と情報収集
- (3) モデル校におけるキャリア発達を支援する取組の充実
 - ① 外部専門家を活用した接客業務体験の実施と附属高等学校との交流及び共同学習の

充実

- ② 大学・企業等の専門家の意見を取り入れた作業製品の開発と地域貢献
- ③ 地域連携・地域貢献を目指した小学部から高等部までの系統的な教育活動の検討
- ④ デュアルシステム型実習や現場実習と連動した体験研修等の実施
- ⑤ 県外視察等による教職員の専門性の向上、教職員・保護者への研修会の実施等による就職支援の充実

4 研究の成果

(1) モデル校を核とした就労支援体制の構築

ハローワークを含めた関係機関・各事業所等が参加する就職支援ネットワーク会議を年3回実施し、校内の就職支援体制の構築、キャリア発達を支援する授業改善、教職員・保護者を対象とした就職支援研修会に関する協議を行い、適切な助言を得た。参加者より来年度以降も会議を開催することが要望されるなど、信頼関係が確実に深まり、ネットワークを強化することができた。卒業生への就職支援に関する事例検討を行う等、切れ目のない就労支援体制を構築することができた。

(2) モデル校における就職支援コーディネーターを活用した就職率向上への取組

進路指導主事と連携し、新規実習先の開拓、実習生への巡回指導、卒業生へのアフターフォロー、就職支援ネットワーク会議参加のハローワークを含めた関係機関等への連絡・調整等のために、モデル地域内の延べ310か所（平成26年度237か所）を超える事業所を訪問した。その成果として、11か所の新規の実習先（平成26年度10か所）を開拓するとともに、企業のニーズ等を把握した。ハローワークからの定期的な求人情報の提供や校内におけるジョブマッチングの検討等により、平成27年度卒業生就職率が、就労継続支援A型事業所への就職者1名を含め62.5%（昨年度37.5%）と向上した。

(3) モデル校におけるキャリア発達を支援する取組の充実

平成20年度より8か年に渡って進めてきた「たくましく生きぬく力の育成ーすべての子供の自立と社会参加、就労の実現を目指すー」の研究実践の上に立ち、本事業を有効に活用し、大学や企業、地域等と連携した授業改善などの取組を効果的かつ効率的に推進することで、キャリア教育・職業教育の充実につながるとともに、愛媛大学内の附属学校間の交流及び共同学習の充実や地域貢献にも寄与することができた。教職員や保護者を対象とした研修では、外部と連携し昨年度よりもさらに充実させることで、スキルや専門性が高まり、研修後の2回のアンケートからは、97.5%の教職員より高い満足度を得た。

5 課題と今後の方策

(1) モデル校を核とした就労支援体制の定着

本事業を活用することにより、モデル地域における就職支援体制を構築することができたが、今後はモデル地域に本体制が定着し、さらに発展を目指していくために、複数年にわたって本事業を受託していく必要がある。校内外で実績が積み重ねられ、知名度や認知度が上がり、県内外にその実績を発信していくことで、本事業を受託した価値が高まると考えられる。

(2) 就職率の維持・向上と新規実習先等の開拓及び卒業生就労後のアフターフォローの充実について

就職支援コーディネーターと進路指導主事が連携した効果的な取組（新規開拓、実習生のきめ細かな巡回指導、卒業生のアフターフォローの充実等）、ハローワークを含めた関係機関との連携等により就職率が向上したが、就職率の維持とさらなる向上を目指し、今後も支援を続けていく必要がある。その手掛かりとして、大学の人事課と定期的に連携・協議を行い、新規の雇用創出を目指した担当業務内容等の検討を進めたい。

(3) モデル校におけるキャリア教育・職業教育の充実について

教職員の指導・支援の充実を図るために、企業等と連携し、ニーズに応じた研修を定期的に実施していく。授業改善では、小学部・中学部・高等部の系統的なキャリア教育を目指し、販売活動等を通じた地域貢献への取組や日常生活訓練施設「みかんの家」における宿泊学習の充実に努めたい。また、作業学習の授業改善では、外部専門家の積極的な活用を図り、製品の質の向上やブランド化を検討していくことで、生徒の働く意欲をさらに創造したい。